

第3回産地間連携等推進検討会の議事次第

このたび、平成27年度農山漁村6次産業化対策事業補助金の「産地間連携等による輸出振興体制の構築を図る取組に係る経費」を活用して、「産地間連携等推進検討会」を開催することとなりました。

青果物の輸出に係わる関係者にお集まり頂き、輸出先や青果物の種類に応じた様々な現状や課題を明らかにして、今後の協議会活動として取組を行うため、皆様方の忌憚のないご意見を賜りたいと思い第2回の開催内容やその後の状況を踏まえて、下記のとおり第3回の検討会を開催いたします。

日時：平成28年3月7日（月） 15時30分から

**場所：日本青果物輸出促進協議会 会議室（（一社）日本青果物輸出入安全推進協会内）
東京都大田区東海3-8-2、TSKビル3階**

連絡先： 電話：03-6412-9977

議題1 「輸出向け青果物産地」に関するアンケートとりまとめ結果：協議会事務局から説明
15時30分から16時

議題2 追加公募に係る事業の実施状況：各事業実施者による説明
・販促活動：タイ及びカナダ
・輸送試験：シンガポール
16時から16時30分

議題3 補正予算に係る事業の手続き状況：協議会事務局から説明
16時30分から16時45分

- ① 青果物輸出特別支援事業検討会の開催（インポートトレランス申請支援、先進輸送技術試験の支援及び海外フロンティア市場販売促進活動を含む。）
- ② インポートトレランス申請支援 作物残留試験と現地コンサル打ち合わせ及び申請書作成
- ③ 植物検疫条件対応機材整備支援 柑橘類の表面殺菌機器のリース
- ④ 先進的輸送技術試験の支援 CA コンテナを用いた青果物の輸送試験
- ⑤ 海外フロンティア市場販売促進活動 EU 等での日本製品の PR

議題4 28年度「輸出に取り組む事業者向け補助事業」公募対応の状況
16時45分から17時

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例1 輸出向け青果物産地	
① 都道府県名：群馬県	主な生産者の所在地名：富岡市 前橋市
② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）：	シンガポール タイ
③ 青果物名 いちご	品種：やよいひめ
④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：	9:1 で まだ海外出荷は1割程度
⑤ 輸出向けの取組内容	
輸出向の防除暦作成	なし
残留農薬の分析	あり
その他（具体的に）	
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。	韓国やアメリカを意識し糖度と果皮に意識した出荷
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容	ハードパックで出荷～エンドユーザーまで劣化を抑えた荷姿
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。	豊凶により輸出量が増減する
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？	製品は約3～4倍で販売、B品辺りで特売を行い商品認知度を向上させる
⑨ 産地としての輸出を増やす意向の有無。	
増やして行きたい場合はその理由：	収益を上げたい
横ばいしないし減少の場合はその理由：	特別な対応が難しい
⑩ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。	弊社からの働きかけにて
⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。（例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など）	北関東3県の残留農薬出荷制限の解除より
⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。	
出荷において、容器⇒荷造り⇒梱包など、生産者グループへの指導における	
教育が必要であり、今までの流れと変わる事を嫌う産地作りでの費用など	

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例2 輸出向け青果物産地	
① 都道府県名： 山梨	主な生産者の所在地名：JA ふえふき
② 輸出先国名(複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度)： シンガポール、タイ	
③ 青果物名 桃、ぶどう各種	
④ 国内向けと海外向けの比率(出荷数量割合)： 7:3で海外が3割である	
⑤ 輸出向けの取組内容	
輸出向の防除暦作成	なし
残留農薬の分析	なし
その他(具体的に)	
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。 市場流通よりも1～2割収穫時期を早めて着荷クレームを回避	
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容 鮮度保持袋とハードパックを用いてエンドユーザーまでの鮮度を意識する	
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。 豊凶により輸出量が増減する	
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？ 3倍辺りでの販売が可能で、収支は国内販売よりも好調である	
⑩ 産地としての輸出を増やす意向の有無。 増やして行きたい場合はその理由：収益の向上 横ばいしないし減少の場合はその理由：特別な対応が難しい	
⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。 弊社からの働きかけにて	
⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。(例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など) 前年度の数値を確認頂き、産地から実績向上への意欲が増してきたこと	
⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。 出荷において、容器⇒荷造り⇒梱包など、生産者グループへの指導における教育が必要であり、今までの流れと変わる事を嫌う産地作りでの費用など	

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例3 輸出向け青果物産地

- ① 都道府県名：愛媛県 主な生産者の所在地名：中予地方等
- ② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）：台湾
- ③ 青果物名：温州みかん（ハウス）
- ④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：国内 10：海外 1 程度
- ⑤ 輸出向けの取組内容

輸出向の防除暦作成 あり（モデル防除実証試験を実施中）
 残留農薬の分析 あり
 その他（具体的に） 台湾で検出不合格事例のある農薬の不使用栽培
- ⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。
- ⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容
- ⑧ 輸出品の増減についての特徴があれば記入してください。
 台湾からの引き合いは強いが、残留農薬問題がクリアできず、輸出が滞っている。
- ⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？
 台湾向けに栽培しているものについては、取引先に対し、国内価格＋αでの取引を要請中
 モデル防除実証試験において、増嵩経費と取引価格を精査し、収支の状況や今後事業化の可能性も含めて検証する予定。
- ⑩産地としての輸出を増やす意向の有無。
 - ・収入増に繋がるのであれば、輸出品は自然に増えるものと思われる。
 - ・ハウスみかん全体の生産量が減っている中、その歯止めになれば、と期待している。
- ⑪輸出への取組を産地が行う動機は何か。
 - ・収入増
 - ・将来的な国内需要減に備えた販売チャンネルの多角化
- ⑫輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。（例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など）
 - ・輸出専用園地の設置もさることながら、区分選果が非常に大きな問題となっている。
 - ・主要品種の選果時は、施設のキャパ及び人員ともに限界に近い稼働率で運営している。
 - ・最低でも共選場単位で輸出に取り組む必要がある。
 - ・検疫条件や残留農薬基準など、関税以外の輸出障壁を解消しない限り、上記の問題がつきまとう。
- ⑬今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。
 - ・共選場単位で輸出に取り組む場合の奨励金。（生産量×〇〇円）

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例 4 輸出向け青果物産地
① 都道府県名： 主な生産者の所在地名：〇〇地方等 山梨県、JA フルーツやまなし：白鳳、白桃、葡萄（巨峰、ピオーネ、シャインマスカット等）柿 長野県、須高農業協同組合、JA 安曇野、JA 中野市農協：白桃、白鳳、南水梨、巨峰、シャインマスカット、林檎 岡山県、JA 岡山西：シャインマスカット、アレキサンドリア、白桃、愛宕梨 佐賀県、JA からつ、JA 伊万里：佐賀ほのか（苺）温州ミカン、幸水、南水、新高、ハウスみかん 愛媛県、JA 西宇和：温州みかん、甘平、伊予かん、 福岡県 JA 八女、JA 筑後：いちご（あまおう）梨（幸水、南水） 静岡県、静岡県温室農業協同組合支所 クラウンメロン支所：クラウンメロン、マスクメロン
② 輸出先国名（量の多い国上位3カ国程度）：香港、タイ、シンガポール、インドネシア
③ 青果物名 ①に記載
④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：国内 97.3％ 海外 2.7％
⑤ 輸出向けの取組内容 輸出向の防除暦作成：あり 残留農薬の分析：なし
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。 国内流通のものをそのまま流通（時折エチレン剤を入れている）
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容 もも、梨等についてはフルーツキャップで包んで緩衝材としているが、手間と費用が掛かっている
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。 アジアの日本食レストランからの引き合いで（つまもの）や季節ものの野菜類の発注が多くなってきている、午前2時の発注で午前7時に羽田まで持ち込んでいる、5時間作業で100アイテム程度の対応となっている（海外にはない食材で日本食さしさ）の演出をしている（豊凶）には関係しないと思われる。豊作で価格が下落したので本年は北海道の玉葱の引き合いがあった、対応しなかった
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？ 季節や他国の競合で価格は維持できるか？ など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？ 海外での販売は現在果物が圧倒的に多く、高級品のみが売れている、日本以外のアジアの国と価格競争をすれば負けるが、日本産のイメージは高くても美味しく安全性が高い、高級感があるのが勝ちの要因で、輸送費を船便などで下げればもっと競争力はある（安さを求めている）
⑩ 産地としての輸出を増やす意向の有無。増やして行きたい場合はその理由：ものが有ればもっと輸出が拡大できる、国内の客に隠しながら販売していく事が多々有った、産地とのしっかりした連携がなければいけない。
⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。⑫輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。
⑬今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。 産地ごとの残留農薬検査、植物防疫検査等実施しなければ今後の輸出拡大に問題を起こしかねないのでそれらの検査機関を各県事に設置する為の補助、又は市場内、周辺に設置する為の補助が必須と思われる。現在は市場に入荷したものをそのまま混載で積んでいるので実に危険な状態と言える。

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例5 輸出向け青果物産地

① 都道府県名：鳥取県 主な生産者の所在地名：全県

② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）：台湾、米国、香港

③ 青果物名：二十世紀梨

④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：

梨の国内市場向け 8,208t 海外輸出 434t(5%) ※更に国内直販あり

⑤ 輸出向けの取組内容

輸出向の防除暦作成	あり	なし
残留農薬の分析	あり	なし
その他(具体的に)		

⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。

台湾向けは赤秀の10～12玉/5kgの最上等級・大玉果に限定。

⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容

台湾向けではギフトとして、また輸送中の損傷を防ぐため、フルーツキャップ詰めや5キロ箱での専用荷造りを行っている。

⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。

台湾、香港は最大の需要期となる中秋節の早晩に輸出量が左右される。

⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？

価格面では国内価格より高いが、他国の安価な果実との競争に負けて数量が伸びていない。

⑩ 産地としての輸出を増やす意向の有無。

横ばいしないし減少の場合はその理由：栽培面積の減少、高齢化、後継者不足の進行

⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。

国内市場価格の安定を図る手段として、行政機関と農業団体が協力して取り組んでいる。

⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。（例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など）

（周知のように二十世紀梨は80年以上の輸出の歴史がありますので省略します。）

⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。

最大の需要国である台湾、香港は安定市場と位置づけられているが、競合国との競争が厳しく、販促に力を入れないと指定席を奪われてしまうため、試食用果実も補助対象経費とするなど、補助事業の充実をお願いしたい。

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例6 輸出向け青果物産地

① 都道府県名：福岡県

② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）：台湾

③ 青果物名：みかん、いちご

④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：不明だが、少ない

⑤ 輸出向けの取組内容

輸出向の防除暦作成 ☒あり ☐なし

残留農薬の分析 ☒あり ☐なし

その他（具体的に）

⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。
特になし

⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容
特になし

⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。
国内相場、生産量（サイズ、品質等）により影響される
中秋節、春節など国内とは異なる時期に輸出量が増加する

⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での
特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？
基本的には国内価格と同じ価格。
輸出専用には別途対策が必要であれば、その費用を上乗せする。

⑩産地としての輸出を増やす意向の有無。
産地・品目によって温度差があり。
増やして行きたい場合はその理由：国内需要が下がっているため。
横ばいしないし減少の場合はその理由：国内で販路は十分なため。

⑪輸出への取組を産地が行う動機は何か。
産地や行政機関、得意先の意向

⑫輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。（例：関税撤廃、植物検疫条件の
緩和、補助事業の充実など） 発展というまでには至っていない

⑬今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。
残留農薬対策に係る検討会、検査費用の補助
安定市場におけるシェア拡大に向けた販促活動への補助

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例7 輸出向け青果物産地

- ① 都道府県名： 青森県 青森県全域（主には津軽地域）
- ② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）： 台湾 香港 中国
- ③ 青果物名 りんご
- ④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：国内向け 89% 輸出向け11%（平成26年産出荷比率）

- ⑤ 輸出向けの取組内容 輸出向の防除暦作成 あり
残留農薬の分析 自主的に実施している団体あり。

- ⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。
基本的に規格や品質は国内と差異ない。

- ⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容
植物検疫所の台湾向け生果実検疫実施要領に基づいた梱包資材として一般的に
通気性発泡スチロール箱が使用される。（国内は4月頃まで段ボール箱）

- ⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。
・海外からの安定的な受注があり、作況に係わらず一定程度輸出されている。
・為替レートや他国のりんご動向など外的要因に左右される側面を有する。

- ⑨ 国内価格より海外価格が高いか？など価格面での特徴を記入してください。
国内消費地平均価格 319円（1kg） 輸出向け平均価格 363円（平成26年産）
輸出向け価格に牽引され国内相場の水準が上昇傾向にある。
輸出が拡大基調を辿り国内販売も堅調に推移している。

- ⑩ 産地としての輸出を増やす意向の有無 有 数年来、秋口の輸出開始時期から本県産りんごに対する引き合いが強く、その流れが中生から晩生種まで続き高値取引されている。
一定量が輸出に向けられることで国内の需給が引き締まり、国内価格の引き上げにつながっている。また輸出向け高値が国内の相場を形成している面もある。
堅調な国内販売を持続するためにも輸出の更なる拡大を図りたい。

- ⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。

⑩及び⑪の理由から本県産りんごにとって主な輸出先である台湾は出荷先として、国内市場同等の重要なマーケットとなっている。近年輸出が増加している香港、中国についても、今後の有望なマーケットであり積極的な出荷を図ってきたい。

- ⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。

日本から主な輸出先である台湾へは平成13年まで輸入割当制が敷かれ 2000トンの枠内の輸出に留まっていた。平成14年1月に台湾がWTOに加盟し、輸入枠が廃止され平成14年産で1万トン超、18年から21年までは4年連続2万トンの輸出を達成した。平成23年産で円高の影響等から1万トンを割り込むまでに低迷するも、為替レートが円安傾向となった24年産では増加に転じ、台湾のほか香港、中国への輸出も伸長もあり平成26年産では過去最高の約3万トンを達成している。

- ⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。

青森りんごが台湾をはじめとする海外マーケットで他国産りんごと競いながら、そのシェアを維持し拡大していくためには、世界トップレベルの食味・品質、安全性といった青森りんごの優位性を一層強化するためのプロモーションが不可欠である。メディア、店頭、WEB、イベントなど多様なプロモーションで活用できる事業メニューがあれば有用である。

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例 8 輸出向け青果物産地	
① 都道府県名：	秋田県
② 輸出先国名(複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度)：	香港
③ 青果物名：	桃、りんご
④ 国内向けと海外向けの比率(出荷数量割合)：	
⑤ 輸出向けの取組内容	
輸出向の防除暦作成	あり <u>なし</u>
残留農薬の分析	<u>あり</u> なし
その他(具体的に)	
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。	
りんご：輸出向けについては選果を2回⇒3回実施している。(目視)	
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容	
りんご：輸出向けは発砲スチロール対応。	
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。	
桃：天候により輸出量が増減する。特に正品率が悪い場合は大幅に数量減となる。	
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？	
価格：国内価格の1.3～1.5倍程高い。差別化を図るため県オリジナル品種を輸出しており、安くはない。	
⑨ 地としての輸出を増やす意向の有無。	
増やして行きたい場合はその理由：国内販売低迷対策、生産者の手取り向上。	
横ばいしないし減少の場合はその理由：	
⑩ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。	
産地の自主的な意向、団体の意向の両方。	
⑫輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。(例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など)	
⑬今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。	
各省庁や県からいろいろな補助事業メニューがあるため現状でよい。	

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例9 輸出向け青果物産地	
① 都道府県名：	山形
② 輸出先国名(複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度)：	台湾・香港・シンガポール
③ 青果物名	りんご、もも、ぶどう
④ 国内向けと海外向けの比率(出荷数量割合)：	1%以下
⑤ 輸出向けの取組内容	輸出向の防除暦作成 あり 品目により 残留農薬の分析 あり
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。	
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容	箱強度
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。	
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？	収支は若干の黒字
⑩産地としての輸出を増やす意向の有無。	増やして行きたい場合はその理由：TPPなど環境変化への対応、PR
⑪輸出への取組を産地が行う動機は何か。	産地農産物を輸出するため
⑫輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。(例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など)	検疫輸入条件の緩和
⑬今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。	

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例10 輸出向け青果物産地													
① 都道府県名：三重県	主な生産者の所在地名：熊野市・御浜町・紀宝町												
② 輸出先国名（複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度）：	タイ王国 （香港、台湾）												
③ 青果物名：	みかん（温州みかん、せとか、不知火）												
④ 国内向けと海外向けの比率（出荷数量割合）：	7,522:22（タイ）+5.2（香港）（H26） 27.2t/7,522t=0.36%												
⑤ 輸出向けの取組内容	<table border="0"> <tr> <td>輸出向の防除暦作成</td><td>あり</td><td>なし</td><td>（タイ向け）</td></tr> <tr> <td>残留農薬の分析</td><td>あり</td><td>なし</td><td>（台湾向け）</td></tr> <tr> <td>その他（具体的に）</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	輸出向の防除暦作成	あり	なし	（タイ向け）	残留農薬の分析	あり	なし	（台湾向け）	その他（具体的に）			
輸出向の防除暦作成	あり	なし	（タイ向け）										
残留農薬の分析	あり	なし	（台湾向け）										
その他（具体的に）													
⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。	上位規格のものを選別。												
⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容	タイ王国へは輸出仕様の箱を使用。												
⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。	二国間協議による検疫条件の変更、タイ側の対応遅れなどにより、今年度の輸出量は計画を下回った。												
⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？	国内販売単価に比べると高い。事業活用の成果もあり収支状況は良好である。												
⑩ 産地としての輸出を増やす意向の有無。	増やして行きたい場合はその理由：状況を精査しながら継続する。												
⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。	産地の維持発展のために、各種の起爆剂的な取組の一つとして実施。												
⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。（例：関税撤廃、植物検疫条件の緩和、補助事業の充実など）	手厚い補助事業の有効活用ができたこと。国の振興方策に乗れたこと。二国間協議、植防関連の協力が得られたこと。												
⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。	二国間協議による輸出検査に係る産地の負担軽減。												

産地間連携等推進検討会資料：平成28年3月7日

事例11 輸出向け青果物産地

- ① 都道府県名： 和歌山県
- ② 輸出先国名(複数ある場合は量の多い国上位3カ国程度)：
台湾、香港、タイ、シンガポール
- ③ 青果物名
桃、柿、みかん
- ④ 国内向けと海外向けの比率(出荷数量割合)：
大半が国内向けで、海外向けはごくわずか
- ⑤ 輸出向けの実施内容
輸出向けの防除剤作成 なし
残留農薬の分析 なし
その他(具体的に)
- ⑥ 品種や規格、品質等について、国内流通と異なる特徴があれば以下に記載してください。
- ⑦ 容器、包装等について国内向けと異なるものを使用している場合はその内容
桃については、台湾向け出荷資材を使用(国内流通の出荷資材とは別)
- ⑧ 輸出量の増減についての特徴があれば記入してください。
大半が露地栽培で、作柄によっても大きく左右される
- ⑨ 国内価格より海外価格が高いか？季節や他国の競合で価格は維持できるか？など価格面での特徴を記入してください。その結果の収支状況はどうか？
国内流通の延長で、輸出しているケースが多いため、価格面で直接的に高く売っていない
- ⑩ 地としての輸出を増やす意向の有無。
国内市場が縮小する傾向になる中、輸出については増やして行きたい意向
- ⑪ 輸出への取組を産地が行う動機は何か。
国内市場が縮小する傾向になる中、産地、県が連携して輸出の取組を行っているところ
- ⑫ 輸出向け産地の発展の経緯について簡単に記述してください。
- ⑬ 今後の輸出産地育成のための補助事業のメニューとして有用な内容があれば記入してください。
競合国との競合もあり、台湾、香港等の安定市場においても補助事業の充実をお願いしたい。

輸出向け青果物産地アンケート 意見

現時点輸出向けに相手先国の基準を満たした栽培を行うことは産地にとり大きな負担です。現在行っている産地も限られており、また仕入れルートの関係からどの輸出業者もそれらの産地から商品を調達できるわけではありません。今後も相手先国との輸入規格、基準のすり合わせを進めていくことが全体の輸出にとり最も有益と思います。